simC News Letter
Sendai International Music Competition
2015年 2月号
仙台国際音楽コンクールニュースレター

第６回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】ヴァイオリン部門：2016.5.21（土）～6.5（日） ピアノ部門：2016.6.11（土）～6.26（日）

第６回仙台国際音楽コンクール

ヴァイオリン部門課題曲を読み解く

解説：山田 治生（音楽評論家）

第６回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門は2016年５月21日から６月５日まで開催される。これまでに同部門は、スヴェトリン・ルセフ（現・フランス国立放送フィル・コンマス）、ホァン・モンラ（2002年パガニーニ国際コンクール第１位）、白井圭（2009年ミュンヘン国際コンクール第２位）、クララ・ジュミカン（2010年インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクール第１位）、アンドレイ・バラーノフ（2012年エリーザベト王妃国際コンクール第１位）、キム・ボムソリ（2013年ミュンヘン国際コンクール第１位なしの第２位）などの名手を輩出している。

今回、第１回以来審査委員長を務めた宗倫匡氏に代わり、堀米ゆず子氏が審査委員長に就任することによって、審査委員や課題曲の様子もかなり変わったといえよう。審査委員の半数以上が新規に委嘱され、ギドン・クレーメル（ファイナルのみ）、ボリス・ベルキン、レジス・パスキエ、堀正文、加藤知子（予選・セミファイナルのみ）、竹澤恭子らの名ヴァイオリニストたちが審査に加わる。第１回で第１位を獲得したホァン・モンラが審査委員として仙台に帰ってくるのも嬉しい。

課題曲では、セミファイナルで課せられるシューマンの協奏曲が目を引く。コンクールはもちろん、演奏会でもあまり取り上げられない難曲である。ファイナルでは、２つの協奏曲が課せられる。メンデルスゾーンの協奏曲が必須。もう１曲は、20世紀ロシアの協奏曲から選択しなければならない。

「私が受ける立場なら、すごく難しいコンクールだと思います（笑）。心に響く本当の音楽をやってくれる若者を見出したいと思います」と堀米ゆず子委員長は今年１月22日の記者会見で語っていた。

予選は、室内アンサンブルとの共演と無伴奏ヴァイオリン曲からなる。仙台フィルハーモニー管弦楽団と山形交響楽団によるアンサンブルとの共演には、モーツァルトの「アダージョ ホ長調 K261」と「ロンド ハ長調 K373」が選ばれている。指揮者なしの演奏ゆえに、どう弾き振りして（合図を出して）、どうオーケストラとアンサンブルをするのかも課題となるに違いない。かつて筆者が堀米氏にインタビューしたとき、堀米氏はモーツァルトの音楽について次のように語っていた。

「モーツァルトは、音楽の要素の変化がどの作曲家よりも速いのが特徴です。そのうえ、全部の音の粒を真珠のように磨かなければなりません」

楽想の変化の表現と音の一つひとつを磨き上げることの両立は容易ではない。また、近年、時流となりつつある古楽的なアプローチをモダン楽器にどれだけ採り入れるかも注目される。

無伴奏作品は、バルトークの無伴奏ソナタの第１楽章とパガニーニの「カプリース」から１曲。バルトークでは、モーツァルトとは対照的に、圧力をかけたボウイングで重音を十分に鳴らすことが必要とされよう。パガニーニではまさに技巧が問われることにな

第6回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門課題曲

予選 2016年5月21日(土)～5月23日（月）
［独奏・室内アンサンブルとの共演］

次の①～③の全てを演奏する。
① モーツァルト：アダージョ ホ長調 K261
　モーツァルト：ロンド ハ長調 K373
　・ベーレンライター版を使用すること。
　・指揮者なしでの演奏とする。
② バルトーク：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ Sz117から 第1楽章
③ パガニーニ：カプリース op.1から1曲
　＜第13番、第14番、第16番、第19番、第20番は除く＞
　・予備審査で選んだ曲と同じ曲を選んでもよい。

セミファイナル 2016年5月27日(金)～5月29日（日）
［オーケストラとの共演］

次の①②の両方を演奏する。
① シューマン： ヴァイオリン協奏曲 ニ短調
② 次の曲目から1曲を選択すること。
　サン＝サーンス：序奏とロンド・カプリッチオーソ op.28
　サン＝サーンス：ハバネラ op.83
　サラサーテ：カルメン幻想曲 op.25
　ラヴェル：ツィガーヌ

ファイナル 2016年6月 2日(木)～6月 4日（土）
［オーケストラとの共演］

次の①②の両方を演奏する。
① メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 op.64
② 次の曲目から1曲を選択すること。
　ストラヴィンスキー：ヴァイオリン協奏曲 ニ調
　プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ニ長調 op.19
　プロコフィエフ：ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 op.63
　ショスタコーヴィチ：ヴァイオリン協奏曲 第2番 嬰ハ短調 op.129

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION
■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団　仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904 仙台市青葉区旭ケ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/

セミファイナルの課題曲、シューマンの協奏曲は、作曲者最晩年の大作。依頼したヨアヒムがこの作品を弾くことは一度もなく、妻クララもこの曲の演奏を封印してしまう。作曲から84年を経た1937年に漸く作品の存在が明らかになり、同年、クーレンカンプの独奏で世界初演された。しかし、初演後も技巧的に難しい（ピアニスティックな音型など）割りに演奏効果があがらず、演奏される機会はそれほど多くなかった。それでも、クレーメルの幾度にもわたる録音などによって、ヴァイオリニストのレパートリーとして定着していった。堀米氏は記者会見でこう述べた。

「シューマンのコンチェルトはなかなか弾かれないし、ヴァイオリニストにとって、音が鳴りにくく、技術的に難しい。第２楽章のメロディを心底私たちの心に響くように聴かせてくれる人を見出したい」

ドイツ音楽の特徴である堅固な構成感を示すと同時にシューマン最晩年の心の闇に迫る表現も聴きたいものである。

セミファイナルのもう１曲は、サン＝サーンスの「序奏とロンド・カプリッチオーソ」「ハバネラ」、サラサーテの「カルメン幻想曲」、ラヴェルの「ツィガーヌ」という、フランス系の管弦楽付き小品である（サラサーテはスペイン出身だが、パリ音楽院で学んだ）。サン＝サーンスは、サラサーテと親交があり、「序奏とロンド・カプリッチオーソ」をサラサーテに捧げている。しかも、同曲にはサラサーテの故郷であるスペインの要素が採り入れられている。「ハバネラ」もラテン的。サラサーテの「カルメン幻想曲」は、フランスの作曲家ビゼーの「カルメン」の旋律によっている技巧的な作品。いうまでもなく「カルメン」はスペインのロマ（ジプシー）を題材としている。ラヴェルは、スペイン系の血をひくが、「ツィガーヌ」ではハンガリーのロマの音楽（チャールダーシュの形式）を採り入れている。フランス音楽といっても他の民族の色の濃い作品もあり、その洗練と情熱のバランスが難しい。しかも、どれもがヴィルトゥオジティが要求される技巧的作品である。

ファイナルの選曲について堀米氏はこう述べていた。「これまでベートーヴェン（2010年）、ブラームス（2013年）ときているので、メンデルスゾーンを是非聴いてみたいと思いました。対照的なロシアの比較的短めの協奏曲と組み合わせて、だいたい１時間になるようにしました。」メンデルスゾーンのホ短調の協奏曲は、最も演奏頻度の多いヴァイオリン協奏曲といえよう。筆者は、2012年にNHK交響楽団とメンデルスゾーンの協奏曲を共演する堀米氏に同曲について話をきいたことがある。

「メンデルスゾーンの協奏曲はコンパクトですべてが含まれていて難しいんですよ。数年前、有田正広さん(注：指揮者・フルート奏者）からバロック弦(注：巻いてないガット弦）で弾いてくれと言われて、自分の楽器にバロック弦を張って演奏したのが、習慣で弾いていたことを見直す良いきっかけになりました。モダン楽器に戻ってもそのときの経験は活きています」

メンデルスゾーンの協奏曲は、確かにロマン派の名曲であるが、作品自体が格調高く、古典的なあるいは古楽的なアプローチも採り入れることができる。いまだに様々な表現が可能な傑作なのである。

20世紀ロシアの作品は、初演順にならべると、プロコフィエフの協奏曲第１番（1923）、ストラヴィンスキーの協奏曲（1931）、プロコフィエフの協奏曲第２番（1935）、ショスタコーヴィチの協奏曲第２番（1967）となる。プロコフィエフのモダンで洗練された抒情性、ストラヴィンスキーとショスタコーヴィチのそれぞれの新古典的な性格をどう表すかが鍵となろう。20世紀を代表するこれらの作曲家たちは管弦楽法が巧みであり、独奏ヴァイオリンとオーケストラとのアンサンブルも容易ではない。特に合奏協奏曲のようなストラヴィンスキーの作品ではアンサンブル力が要求される。

聴き手にとっても、古典からモダンまで、名曲から隠れた名作まで、様々なヴァイオリン音楽が堪能できる半月間になろう。

※第6回コンクール詳細は公式サイトをご覧ください。www.simc.jp/

第５回仙台国際音楽コンクール優勝者公式記念CD

２人の優勝者のＣＤが発売されました。

リチャード・リン（ヴァイオリン部門優勝）

ブラームス／ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 op.78「雨の歌」
ブラームス／ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 op.100
ブラームス／ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 op.108

ソヌ・イェゴン（ピアノ部門優勝）

ラフマニノフ／ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 op.36（1931年版）
リスト／シューベルトの歌曲によるトランスクリプション
・連祷 S562-1　・糸を紡ぐグレートヒェン S558-8
・水によせて歌う S558-2　・セレナーデ S560-7　・魔王 S558-4
シューベルト／幻想曲 ハ長調 D760「さすらい人幻想曲」
ラヴェル／ラ・ヴァルス

【FOCD9654】

【FOCD9653】

定価：２，４００円（税別）
販売元：株式会社フォンテック

リチャード・リン出演
名古屋フィルハーモニー交響楽団
第423回定期演奏会

日時：2015年4月24日（金）18:45開演
　　4月25日（土）16:00開演
会場：愛知県芸術劇場
　　コンサートホール

指揮：円光寺雅彦（名フィル正指揮者）
ヴァイオリン：リチャード・リン*
ソプラノ：市原愛**

プログラム：
コルンゴルト：組曲『シュトラウシアーナ』
コルンゴルト：ヴァイオリン協奏曲ニ長調 作品35*
マーラー：交響曲第4番ト長調**

料金：S席￥6,200　A席￥5,100ほか
お問合：名フィル・チケットガイド
Tel. 052-339-5666（平日9:00am～5:30pm）

SENDAI INTERNATIONAL MUSIC COMPETITION
■お問い合わせ先／公益財団法人 仙台市市民文化事業団　仙台国際音楽コンクール事務局
〒981-0904　仙台市青葉区旭ケ丘3-27-5　Tel: 022-727-1872　Fax: 022-727-1873　E-mail: info@simc.jp　URL: http://www.simc.jp/